

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに「注」がある。）

問題は誤った情報を信じるかどうかではなく、誤った情報に基づいて行動するかどうかである。もちろん、私たちは何らかの行動をするとき、それに関連する情報に基づいて行動するから、誤った情報を正しいと信じてしまうと、ふつう行動が失敗する可能性が高まる。しかし、ある種の誤った情報については、たとえ「そうだ、その通り」と共鳴しても、それに基づいて行動することがないというのであれば、さしたる被害は生じない。（第二段）

フェイクニュースは多くの人にとってそのような種類の情報であるように思われる。ほとんどの人はフェイクニュースに基づいて行動することはない。たとえフェイクニュースを信じたとしても、行動に関係させない程度の「軽い」感じで信じるにすぎない。しかし、そうだとすれば、そのような情報にはたして情報としての意味があるのだろうか。情報は信頼性が命だということは、情報がその正しさによって行動を成功に導くということが情報の命だということであろう。情報はただ正しいというだけでは意味がない。情報に依拠した行動が成功を収めてはじめて意味をもつ。⁽¹⁾ そうだとすれば、そもそも行動に関係させないような情報など、何の意味もないのではないだろうか。（第二段）

今日、フェイクニュースは大量に生産され、大量に消費されているが、人々はいつたいそれをどのように消費しているのだろうか。行動に関係

させるという通常の仕方でないとするれば、どのような仕方で消費しているのだろうか。それはおそらく「娯楽」であろう。フェイクニュースは面白ければよい。真かどうかはたいした問題ではなく、面白いかどうかの問題だ。人々はフェイクニュースを行動に役立てるための情報としてではなく、面白さを享受するための情報として消費している。（第三段）

一般に、面白さの享受は私たちの^{*}ウェルビーイングに貢献する。小説、映画、お笑いなど、娯楽は多岐にわたるが、私たちの自己物語に何か特別な事情でもない限り、娯楽は私たちの人生に潤いを与えて、ウェルビーイングを高めてくれる。しかし、フェイクニュースを娯楽として消費することは、たとえそれが面白さを味わわせてくれるとしても、はたして私たちのウェルビーイングを高めるだろうか。いや、誤った情報ではなく、たとえ正しい情報であったとしても、情報を娯楽として消費することは、私たちのウェルビーイングを向上させるのだろうか。（第四段）

情報は不確定性を減らして行動を成功に導くために消費されるべきものである。したがって、情報を面白さの享受のために消費することは、情報の本来のあり方に反している。実際、情報を娯楽として消費する人は情報の真偽をあまり気にかけていないだろう。あるいは、気にかけていても、誤った情報をあえて真だとみなすことで、単なるフィクションからは得られないような危うい面白さを味わおうとするだろう。⁽²⁾ いずれにせよ、情報を娯楽として消費する人は、情報を情報として真摯に受け止めていない。したがって、娯楽として情報を消費することは、情報

の欺瞞^{*ぎまん}的な利用を孕^{はら}んでいる。つまり、*真正性が欠如しているのである。そうだとすれば、情報の娯楽的な消費は結局のところ、私たちのウエルビーイングを高めるどころか、むしろ損なうであろう。(第五段)

情報にはアナログ情報とデジタル情報がある。情報社会で猛威を振るっているのは、もちろんデジタル情報である。アナログ情報は連続性によって定義され、脳や身体のような生物学的な媒体(バイオメディア)における情報はアナログである。一方、デジタル情報は離散性によって定義され、コンピュータが処理する電子的な媒体での情報はデジタルである。私たちは今日、生物として相変わらずアナログ情報を使って脳や身体^の生命活動を行っているが、その一方で、コンピュータによって処理されるデジタル情報を使って画期的な情報社会を成立させている。(第六段)

しかし、コンピュータの凄まじい発達^{すさ}によって、やがてAIが人間の知能を上回る時点、すなわちシンギュラリティがやってくると言われる。もしそうなれば、人間はAIに仕事を奪われて、生きていけなくなるかもしれない。このような^{*}ディストピアの可能性を前にして、時に人間の生き延びる^{*}方途として、電脳空間へのマインド・アップローディングが語られる。自分の記憶、知識、目標など、心の内容をすべて電子媒体でのデジタル情報に変換し、それを電脳空間にアップロードして、デジタル情報の集合体として生き延びていくというわけである。(第七段)

はたしてこのような仕方^で人間は生き延びていくことができるだろうか。たしかにAIが電子媒体のデジタル情報を駆使して人間を上回る知

能を獲得した暁には、人間が生物媒体のアナログ情報を用いて脳や身体を活動させて生きていくという効率の悪い生存様式は、*淘汰^{とうた}されてしまふことになるかもしれない。しかし、電脳空間に心をアップロードしたからといって、はたして私たちは生き延びていけるのだろうか。(第八段)

ここで注意すべきなのは、私たちの心は現在、脳と身体によって実現されており、それゆえその心の内容は生物媒体のアナログ情報からなるということである。そうすると、アップローディングのさいに心の内容を電子媒体のデジタル情報に変換するということは、生物媒体のアナログ情報をそのようなデジタル情報に変換することである。たしかに音楽CDが示すように、デジタル情報は限りなく高い精度でアナログ情報をシミュレートすることができるから、そのような変換を行っても、重要な情報が失われるということはないであろう。しかし、生物媒体のアナログ情報を変換したデジタル情報は元の情報の生物学的アナログ性をいわばその「名残」として引きずっている。アップロードされた心はこのような名残を留めた^{とど}デジタル情報の集合体である。そのようなものはたして電脳空間で生き延びていけるだろうか。(第九段)

情報は自由になりたがっているとされる。電脳空間は電子媒体のデジタル情報がAIの^{*}アルゴリズムによって超高速に処理される空間である。このような電脳空間の特徴にふさわしいあり方^をすることが情報にとつての自由であろう。そうだとすれば、生物媒体のアナログ性を名残として引きずるデジタル情報が、電脳空間においてその名残を引きずつ

たまま維持されることはないだろう。それはやがて自由を求めてその名残を振り払い、電腦空間にふさわしいあり方へと根本的な変貌を遂げるだろう。⑨ そうなれば、おそらくアップロードされた私たちの心はもはや人間の心ではなくなり、私たちは消滅の憂き目に合うことになる。(第十段)

電子媒体のデジタル情報が求める自由は、そのような情報にとつてのいわば「ウェルビーイング(善き在り方)」であろう。しかし、それは私たちにとつてのウェルビーイングではない。生物媒体のアナログ情報を基盤とする私たちは、電腦空間へのアップローディングに生存の道を求めたとしても、そこで生き延びるのは難しく、ましてやウェルビーイングを達成するのは至難であろう。私たちは私たちの基盤である生物媒体のアナログ情報を大切にして、それによって自らの生存およびウェルビーイングを達成するしかない。そのためには、デジタル情報の集合体と化すのではなく、やはりアナログ情報の集合体のまま、何とかAIと共生する道を見いだすしかないだろう。AIへの同化ではなく、AIとの共生が唯一の生き延びる道だと思われるのである。(第十一役)

(信原幸弘「情報とウェルビーイング」(一部改変)による)

〔注〕 ウェルビーイング——人生のよい在り方。

欺瞞(ぎまん)——だますこと。

真正——本物であること。

ディストピア——暗黒世界。

方途——方法。

淘汰(とうた)——環境に適応できないものが取り除かれること。

アルゴリズム——計算の手順。

問1 (1) そうだとすれば、そもそも行動に関係させないような情報など、

何の意味もないのではないだろうか。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア フェイクニュースは人の行動を失敗させるものであるため、はじめから人はフェイクニュースを見ようとはしないと考えているから。

イ 情報は人の興味を引いて共感させることに意味があるため、信頼性だけでなく面白さも必要だと考えているから。

ウ 正しさによって人の行動を成功に導くことが情報の本質であるため、人の行動につながらない情報には価値がないと考えているから。

エ フェイクニュースを多くの人が信じて行動したとしても「軽い」結果で終わると想定されるため、実害は生じないと考えているから。

問2 いずれにせよ、情報を娯楽として消費する人は、情報を情報とし

て真摯に受け止めていない。とあるが、「情報を娯楽として消費する」

とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア 情報を、信頼性によって私たちを成功に導くものとして捉え、安全に行動するために使うということ。

イ 情報を、面白さを享受するためのものとして捉え、真偽にこだわらず楽しむために使うということ。

ウ 情報を、人生に潤いを与えるものとして捉え、私たちの生活の質を高めるために使うということ。

エ 情報を、自分に役立つものとして捉え、不確定性を減らして穏やかに生きていくために使うということ。

問3 この文章の構成における第八段の役割を説明したものとして最も

適切なものは、次のうちではどれか。

ア 第七段で説明した内容を踏まえ、AIと人間との関係について新たな視点と疑問を示すことで、論の展開を図っている。

イ 第七段で説明した内容を踏まえ、AIと電脳空間との関係について新たな具体例を提示することで、話題の転換を図っている。

ウ 第七段で説明した内容を受けて、人間とアナログ情報との関係について順序立てて解説することで、論の妥当性を強調している。

エ 第七段で説明した内容を受けて、AIとアナログ情報との関係について簡潔に要約することで、論点を整理している。

問4 そうなれば、おそらくアップロードされた私たちの心はもはや人

間の心ではなくなり、私たちは消滅の憂き目に合うことになる。

とあるが、筆者が「アップロードされた私たちの心はもはや人間の心ではなくな」と述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選び。

ア デジタル情報に変換された私たちの心は、記憶や知識などの重要な情報が消滅して新しい情報へ更新されると考えているから。

イ デジタル情報の「名残」に置換された私たちの心は、電腦空間を生き延びる上で必要な情報を集めることはまだできないと考えているから。

ウ アナログ情報の集合である私たちの心は、電腦空間に適應するためにアナログ性を保ちながら自由に形を変えられると考えているから。

エ 電腦空間に適した姿に変貌した私たちの心は、人間の心を実現する生物媒体のアナログ性が失われていると考えているから。

問5 国語の授業でこの文章を読んだ後、「これからの情報社会をよりよく生きる」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「などもそれぞれ字数に数えよ。

問 1

（ウ）

問 2

（イ）

問 3

（ア）

問 4

（エ）

問 5

（例）環境問題の解決策について意見を述べる授業がありました。インターネットで環境問題の現状を詳しく調べると不確定な情報が数多くあり、注意する必要があると思いました。

筆者は「AIとの共生が唯一の生き延びる道だ」と述べています。AIによって高速処理された情報をそのまま受け入れるのではなく、その情報から取捨選択し活用する力が人間には必要だと思います。私はこの力を身に付けて、情報社会をよりよく生きたいです。

（200字）

〈備考〉

問 5 採点のポイント

○テーマ「これからの情報社会をよりよく生きる」に即した自分の意見、主張が適切に書かれている。

○本文中の筆者の主張を的確に捉え、その主張を踏まえて、文章が適切に書かれている。

○自分の意見、主張の根拠となる具体的な体験や見聞について、適切に書かれている。

問1 ポイント まず、「行動に関係させないような情報」がどのようなものか整理する。それは、「フェイクニュース」など、それに基づいて行動することがないような情報のことである。筆者は「情報の命」、つまり、情報の意味について、「情報はただ正しいというだけでは意味がない。情報に依拠した行動が成功を収めてはじめて意味をもつ」と述べている。つまり、筆者は、フェイクニュースなど人の行動につながらないような情報には、情報としての意味がないと考えているのである。

問2 文章の第三段落で、「フェイクニュースは大量に生産され、大量に消費されているが、人々はいったいそれをどのように消費しているのだろうか」と疑問を投げかけ、「それはおそらく『娯楽』であろう」と自身の考えを述べている。そのうえで、「真かどうかはたいした問題ではなく、面白いかどうかが問題」であり、「面白さを享受するための情報として消費している」と説明を加えていることを確認する。また、一般的な面白さの享受は、「私たちのウェルビーイングに貢献する」とあるが、傍線部の直後では、「情報の娯楽的な消費は結局のところ、私たちのウェルビーイングを高めるどころか、むしろ損なうであろう」と、筆者が否定的に捉えている点も押さえておく。以上から、正解はイだと判断できる。

問3 ポイント まず、第七段落の内容を整理する。AIが発達し、シンギュラリティがやってくると、人間の生き延びる方法として「電脳空間へのマインド・アップローディング」が語られるようになり、「自分の記憶、知識、目標など、心の内容をすべて電子媒体でデジタル情報に変換し、それを電脳空間にアップロードして、デジタル情報の集

合体として生き延びていこう」とするというひとつの考え方を紹介している。それを受けた第八段では、その考え方に対して「はたして……生き延びていくことができるだろうか」、「はたして……生き延びていけるのだろうか」と、繰り返し疑問を投げかけ、論をさらに展開させようとしているのである。

問5 本文の内容を踏まえて、「これからの情報社会をよりよく生きる」というテーマに対する自分の考えを整理する。

〈自己採点のポイント〉

○指定字数は合っているか。

○自分の具体的な体験や見聞を含めて書けているか。